

へき地教育

へき地教育は、「へき地教育振興法」及び「へき地教育振興法施行規則」等により定められたへき地学校・これらに準じる学校・特地学校における教育のことをいう。

これらの学校は、小規模のため、少人数や複式での指導を行っている学校が多いという特性をもっている。また、豊かな自然に恵まれ、地域の協力も得やすいなどのよさが見られる。へき地教育は、これらの特性やよさを積極的に生かして教育課程を創造し、学校教育のねらいを達成する教育である。

教科指導の留意点

○ 特色ある教材や学習活動の開発…地域素材の教材化や体験的な活動を工夫する。

地域の豊かな素材を積極的に活用したり、体験的な学習活動を工夫したりして、児童生徒の生活と学習内容を結び付けるとともに、学習への興味・関心を高め、知識や技能を確実に身に付けさせることが必要である。

○ 年間指導計画の作成…各教科等の特質やねらいを踏まえ、指導内容の重点化を図る。

各教科等の指導内容の重点化や教材の精選に努め、指導の系統性、発展性及び児童生徒の発達段階を考慮し、児童生徒が充実した学習ができるように計画を作成することが大切である。特に、複式学級では、上下両学年の指導内容の関連性や系統性を考慮し、学年別指導や同単元指導等の計画を作成する必要がある。

○ 指導過程や指導形態の工夫…少人数の学習集団の特性を生かす。

児童生徒が主体的に学習を進めることができるよう、課題やコースを選択したり、自分の学習課題を設定したりするなど、習熟度はもとより興味・関心、生活経験の違い等に応じた、指導過程や指導形態を工夫することが大切である。

○ 間接指導の充実…児童生徒の思考や認識の過程に即した指導を工夫する。

複式学級では、間接指導を児童生徒が個性や能力に応じて主体的に学習できる場として捉え、個に応じた補充・発展学習や課題別学習などを取り入れ、充実を図る。また、児童生徒の主体的な学び合いの学習ができるように、学習リーダーを育成することも必要である。さらに、間接指導での学びが、直接指導の中で十分生かされるように指導過程を工夫することも大切である。

○ 評価の工夫…個々の学習状況を適切に捉え、指導の改善を図る。

学習の目標や内容に応じ、個別の到達目標の設定や学習過程における評価の位置付け及び方法を工夫するとともに、児童生徒の自己評価や相互評価も取り入れ、指導の改善を図ることが大切である。